OKFA テクニカルレポート 2025

2025 年度北海道 U-15 女子サッカー選手権大会道東ブロック予選

FC 網走 menina・ラベーナ・ロッカフォルテ合同 vs 釧路リベラルティ

2025 年 8 月 2 日(土) @網走トレーニングフィールド 多目的広場 B

報告者：斎藤 正倫（OKFA 技術委員会）

1. 大会概要

FC 網走 menina・ラベーナ・ロッカフォルテ合同(以下「FC 網走 menina 合同」)、釧路リベラルティ、十勝 FS リトルガールズ U-15 の 3 チームによるリーグ戦方式にて順位づけし、北海道大会への出場チームを決定。出場チーム数は北海道女子 U-15 リーグ選出枠との兼ね合いにより変動がある。

【対戦カードと結果】 試合時間 80 分

7/27(日) 十勝リトルガールズ 6-2 釧路リベラルティ（@北見モイワ）

8/2（土） 釧路リベラルティ 3-5 FC 網走 menina 合同（@網走呼人）

8/3（日） 十勝 FS リトルガールズ U-15 6-0 FC 網走 menina 合同（@網走呼人）

今回視察した 8/2(土)は 13:00 キックオフ。12:57 時点で WGBT28.0℃（気温 34.8℃、湿度 48.7%）、前後半ともクーリングブレイクが採用された。芝は良好な状態であった。

2. FC 網走 menina・ラベーナ・ロッカフォルテ合同チームについて

・FC 網走 menina18 名、根室ラベーナ 4 名、十勝ロッカフォルテ 5 名の合同チーム。

・広域のため普段は各チームで練習し、月 1 回程度合同練習を実施。本大会前には強化遠征を行い、高校生とゲームを経験している。

・FC 網走 menina には FC 網走所属選手と中体連で活動する選手がいる。

3. 選手に求めること（FC 網走 menina 合同 鈴木監督への試合前インタビューから）

・ポイントは守備。1stDF、2ndDF を明確に。

・どの局面でも 2vs2 を作ることを意識する。

・自分が誰と組むのかは状況によって変わるので、コミュニケーションをとり続ける。

・ねらいを共有して連動する（相手の縦を切って中へ誘導して挟み込む、など）

・攻撃はシンプルに相手の背後を狙う。カウンターで数的優位をつくることを普段から意識させている。

4. 試合の分析

(1)守備

【前線からの守備】

・全体として中央締め、サイド誘導というねらいを共有してポジションを取っていた。

・FW の献身的な追い込み、本気でボールを奪いにいく姿勢が見られた。終盤に FW が相手 DF からボールを奪いシュートをうつなど、試合を通して走り続ける姿勢が見られた。

（次ページへ続く）

【中盤での守備】

・サイド MF が縦切りをして中へ誘導して中央 MF が奪うなど、チームでねらいとしていた連動が多く見られた。
・試合の中で生じた「中盤で相手に数的優位を作られる」という課題をハーフタイムで修正し、1stDF の寄せを早めて 2ndDF がインターセプトに成功するシーンが見られた。

【自陣での守備】

・中央でもサイドでも、安易に足を出さずに粘り強く対応していた。
・中盤のスペースを使う相手に対応するためにセンターバックが出た際の連動（センターバック、サイドバックの絞り）が遅れ、スルーパスを通されるシーンがあった。
・中央を絞るという意識を持つ中で、逆サイドの選手がマークとボールとを同一視することができずに、対応が遅れるシーンがあった。

【守備全般】

・球際で身体を当てることを怖がらず、ボールを奪い切ろうとする姿勢が見られた。

⑵守備→攻撃への切り替え

・サイドの選手が予測を持ち、味方がインターセプトした瞬間に動き出してパスを引き出し、相手ゴールに迫るシーンが見られた。
・ボールを奪った直後に無理な態勢（相手の寄せがある／サポートの角度が悪い／パスラインができていない）からパスを出して相手にカットされる場面があった。後方のサポートを使って展開、などの判断ができると良い。

⑶攻撃

・ゴールに向かう姿勢、勇敢に仕掛ける姿勢が目立った。
・徹底してシンプルに相手の背後をねらい、相手 DF を苦しめていた。
・FW の裏へ抜け出す動きが多く見られた。適切なタイミングでの動き出しがゴールに結びついたシーンもあった。
・中盤でボールを奪い、一旦後方に落として逆奥をつくという、チームが狙いとしていた攻撃が見られた。

⑷攻撃→守備の切り替え

・全般として背後をすばやく突き、相手にインターセプトされるリスクの少ない攻撃を指向しており、カウンターを受ける場面はあまり多くなかった。
・背後をねらうことで３ラインの間延びが生じ、サポートの距離が遠くなる、守備時の帰陣距離が増えて体力消耗に繋がる、といった課題を感じた。

⑸ゴールプレーヤー

・普段はフィールドプレーヤーだが、ボールを怖がらず、正面でボールを処理していた。
・左右差はあるものの、キックで苦しい局面を逃れる、前線にボールを送るといったことができていた。
・キャッチの際に両膝を地面についてしまうのは課題。怪我につながる、ボールの変化に対応できない、セカンドボールへの動き出しが遅れる、など。
・相手のスルーパスに対する予測、ポジショニング、出る／出ないの判断。これらは DF ラインとの連携も含めて長期の課題となる。

5. 鈴木監督　試合後インタビュー

⑴試合を振り返って

・1stDF、2ndDF の決定と連動について、選手たちは試合を通してよくやってくれた。
・前半終わりに相手に中盤で数的優位を作られたが、ハーフタイムに選手と話し合い、セン

ターバックが対応するという解決策を共有して、後半修正できたことも良かった。

⑵今後目指す方向性について

・攻撃に関しては、これからは「簡単に前を向けない」という状況も増えてくる。だから、「背後」「前」だけでなく、楔を入れる、横にはたくなどボールを保持しながら前進するようなスタイルにも挑戦していきたい。
・合同チームということで「ティーチング」が多くなってしまうが、「自分で判断する」には判断材料が必要。まずは「こうすればいい」という策を提示し、選手がそれを実行して成功体験を積むことで、将来自分で判断していけるようになってほしい。

6. 視察を終えて

【女子サッカーへさらにスポットライトを】

・まず何より、明るく前向きにサッカーに取り組む女子選手たちの姿が印象的でした。
・彼女たちがサッカーをもっともっと楽しみ、生涯にわたってサッカーに携われるような環境をつくることが大切だと感じました。
・本大会は、山本女子委員長をはじめ、女子委員会の皆さんの献身的なサポートに支えられていました。マンパワーをさらに女子に注入し、事業の充実・女子選手の増加に繋げたいと感じました。

【みんなで手を携えて女子選手の育成を】

・今回視察させていただいた FC 網走 menina・ラベーナ・ロッカフォルテ合同は、広域にまたがる合同チームであり、全メンバーがそろっての練習が困難な状況です。
・そんな中で監督がチームとしての方向性を提示し、選手たちがそれを実行しようとする姿に、強い一体感を感じました。
・鈴木監督が話す「判断」の部分は、合同チームだけでなく普段の各チームでも育てていける要素だと思います。基本技術や戦術についても同じです。
・ボールを保持しながら前進する…より高いレベルのサッカーを目指すためには、試合の中でさまざまなポジションを経験し、サッカー理解を深めることも大切だと思います。
・私自身がそうでしたが、自チームにいた女子選手にあまり多くのポジションを経験させていませんでした。
・「当たり負けするから」「スピードで負けるから」…でも、だからと言ってサイドでばかり起用していては、多方向にボールをさばける選手はなかなか育成できません。
・各チームが課題を共有し、リーグの A チーム戦、難しければ B チーム戦や練習試合など、さまざまなポジションを経験する機会を作り出すことが、女子チームの質の向上につながるのではないでしょうか。

最後になりますが、多忙な中にも関わらず、今回の視察を快諾し協力していただいた FC 網走 menina・ラベーナ・ロッカフォルテ合同の鈴木監督と選手の皆さん、釧路リベラルティの春名監督、そして、3 日間にわたって大会運営に当たったオホーツク地区サッカー協会女子委員会ならびに審判委員会の皆様、本当にありがとうございました。

（終わり）